

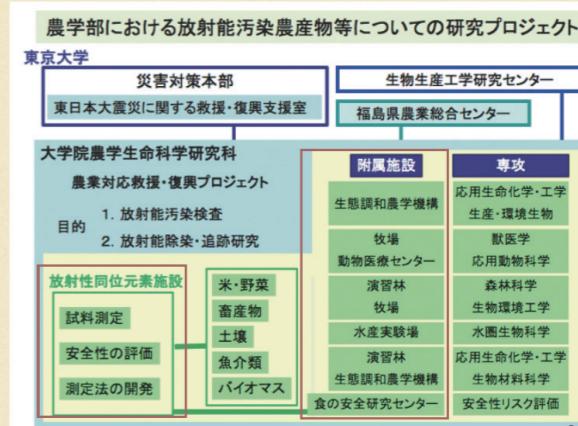
「放射性物質汚染と食の安全の今は？被災地の早期復興を願って-」
開催日： 2014年2月16日(日)、13:30-17:30
開催場所： 東京大学農学部弥生講堂一条ホール

東京大学大学院農学生命科学研究科における放射線教育について

田野井慶太朗
東京大学大学院農学生命科学研究科 附属放射性同位元素施設

東京大学大学院農学生命科学研究科の取り組み

- 東京大学災害対策本部の「救援・復興支援室」への登録プロジェクト
- 放射性同位元素施設は測定担当
- 附属施設の活躍

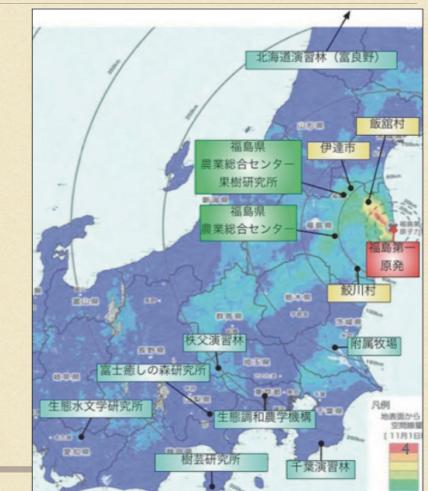


「調査研究」から「放射線教育」へ

1. 東京大学大学院農学生命科学研究科の放射能対策への取り組み
 1. 試験の場
 2. 附属施設の例
 1. 牧場
 2. 放射性同位元素施設
2. 農学分野の放射線教育
 1. 放射線教育の重要性
 2. アグリコーン
 3. 活動例

被災地との結びつき

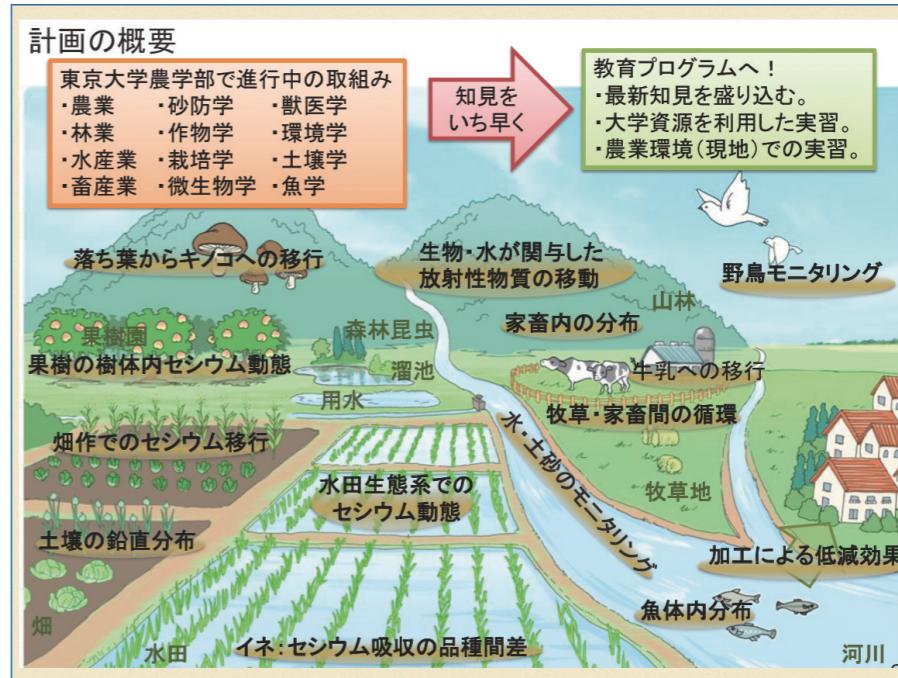
- 当初：福島県農業総合センターとの協力体制
- 地方自治体との結びつき
- 附属施設の活用



成果提供の場：報告会 これまで8回

「東京大学農学部」「放射能」で検索！

The video player shows a slide with the title "第三回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会" and a thumbnail image of a presentation slide.



放射線教育の重要性

汚染水？農作物？
徹底的にいいこと？
Cs-137：30年
将来を担う若者へ

■ 誤解から生じる風評被害
■ 問題対応（モニタリング）の最適化
■ 半減期30年の長いつきあい

↓
教育



実施体制：アグリコクーン

- 専攻の枠を超えた大学院教育プログラム
- 学部生へも
- 農における放射線影響フォーラムグループ（H24年度より）

AGRI-COCOON (アグリコクーン)は、東京大学農学部農学科研究科に2005年に開設された、「農・学・官・民」の連携による、大学教育のさらなる発展と充実を目的とした組織です。毎年、幅広く多くの学生たちが参加するプロジェクトで、毎年、多くの学生たちが参加しています。

10/10 ■ 農業環境における放射線影響ゼミナール
月曜日6限

農業環境における放射線影響ゼミナール
月曜日6限

農における放射線影響フォーラムグループ

- 福島第一原発事故による放射能汚染地域の大半は、農林畜水産業の場です。この被災地における農林畜水産業復興と食糧の安全確保は急務であり、本研究科は事故直後からそのための調査研究を行っています。本FGでは、最新の知見や発見に基づく教育プログラムによって、農における放射性物質の動態や影響を学びます。本FGは、即戦力となる人材のみならず、将来、リーダーとして社会貢献する人材の育成を目指します。

16

飯館調査
(学生10人と)
平成24年10月5日(金)～6日(土)



牧場実習

平成25年4月23日(火)、5月21日(水)、8月2日(土)、8月6日(水)、9月26日(金)



東大の研究室をのぞいてみよう！

平成25年8月7日(木)、12月21日(日)



森林環境における放射能影響実習

平成25年9月20日（金）～22日（日）



『原発事故と学生～東京から考える～』

平成24年12月1日(土)



五月祭：飯舘出身の若者と東京大学学生による企画
平成25年5月19日(日)

「調査研究」から「放射線教育」へ

- 1. 東京大学大学院農学生命科学研究科の放射能対策への取り組み
 - 1. 試験の場
 - 2. 附属施設の例
 - 1. 牧場
 - 2. 放射性同位元素施設
- 2. 農学分野の放射線教育
 - 1. 放射線教育の重要性
 - 2. アグリコクーン
 - 3. 活動例
 - 1. 講義
 - 2. 実習
 - 3. シンポジウム



サイエンスカフェ（関崎先生）
放射線関連：中西、田野井、小林、広瀬、二瓶

まとめ

- 実習を軸とした放射線教育を様々なレベルで展開する。
 - 小人数から大人数
 - 中高生、大学生、大学院生、社会人、一般の方
 - 初歩的教育から研究まで

知識の伝播

教育を展開できるのも、研究が充実しているからこそ。